

第四回

上手な医療の かかり方アワード



受賞プロジェクト 事例のご紹介

厚生労働大臣賞 最優秀賞

厚生労働省 医政局長賞 優秀賞

上手な医療のかかり方プロジェクトに関するお問い合わせ先

info@kakarikata.jp

詳しくは上手な医療のかかり方公式サイトをご覧ください。

<http://www.kakarikata.jp>

「上手な医療のかかり方プロジェクト」とは

昨今、医療の危機と現場の状況は深刻なものとなっており、
「いのちをまもること」と同時に「医療をまもること」は、
私たち一人ひとりがきちんと向き合い、考えていかなければならない喫緊の課題です。
「上手な医療のかかり方プロジェクト」は、そのような背景のもと、
すべての国民とその健康、また日夜力を尽くしている医師・医療従事者のために
始動したもので、国、自治体、医療機関、民間企業、市民社会など、医療に関わり、
恩恵を被る「すべての人」が考え、参加し、行動すべき国民的プロジェクトです。

“上手な医療のかかり方” 大使のご紹介



悪魔・アーティスト デーモン閣下

魔暦紀元前 17(1982)年、ロックバンドの姿を借りた悪魔集団「聖飢魔II」の歌唱・説法方として現世に侵寇。「芸術・娯楽の創出演出」「社会批評」「表現者」として、全方位マス・メディアで蔓延る。
厚労省「上手な医療のかかり方」大使(4期目)。
広島県がん検診啓発特使、早大相撲部特別参与(共に11期目)。
警察庁「地球交通事故撲滅本部本部長」役で広告出演。
現在聖飢魔II 期間再延長再集結「35++ 執念の大黒ミサツアー」を全国で遂行中。

公式ウェブサイト：<http://demon-kakka.jp/>

上手な医療のかかり方アワードについて

厚生労働省では平成30年度に「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」を開催し、その懇談会において「いのちをまもり、医療をまもる」国民プロジェクト宣言!が為されました。これを踏まえ、
保険者・医療機関・企業・各種団体・自治体等において、上手な医療のかかり方の啓発などの優れた取組や、
医師などの医療従事者の負担軽減に向けた優れた取組、並びに若年層に対する医療受診の教育に関して優れた
取組を行っている企業や団体を厚生労働省が表彰し、その理念や取組内容などを広く発信することで、
国民の医療のかかり方に関する理解を深め、取組主体の意識を高めることを目的としています。

取り組み募集アクション

- (1)患者・家族の不安を解消する取組を最優先で実施している。 / (2)医療の現場が危機である現状を国民に広く共有している。
- (3)緊急時の相談電話やサイトを導入・周知・活用している。 / (4)信頼できる医療情報を見やすくまとめて提供している。
- (5)チーム医療を徹底し、患者・家族の相談体制を確立している。 / (1)~(5)複数項目に関連する取組を実施している。

実施概要

主催	厚生労働省(上手な医療のかかり方プロジェクト)
実施期間	<応募受付>令和4年9月30日(金)~12月13日(火) <表彰発表>令和5年3月22日(水)
募集対象	(1)企業・保険者 : 一般企業、市町村国保、国保組合、協会けんぽ、組合健保、共済組合、後期高齢者医療制度 (2)医療関係者 : 病院、診療所、医師会・病院団体等の関連団体 (3)民間団体 : 市民団体等 (4)自治体 : 都道府県、市町村 ※自社の事業・製品サービスの告知を中心とする応募は対象外。
表彰	●厚生労働大臣賞 最優秀賞 (1件) ●厚生労働省医政局長賞 (2件) ・1件: 上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組 ・1件: 上手な医療のかかり方における優良なコンテンツの作成やナッジ等の取組 *ナッジとは行動科学の知見から、自発的に望ましい行動をとれるように人を後押しするアプローチの事

第四回「上手な医療のかかり方アワード」(令和4年度) 審査委員

審査委員長

秋山 正子 認定NPO法人 マギーズ東京 共同代表理事 / マギーズ東京 センター長
株式会社 ケアーズ 代表取締役 / 白十字訪問看護ステーション 統括所長
NPO法人 白十字在宅ボランティアの会 理事長 / 暮らしの保健室 室長

審査委員

阿真 京子 子どもと医療 主宰
岩永 直子 BuzzFeedJapanNewsEditor(Medical担当)
斐 英洙 ハイズ株式会社代表取締役社長
古川 弘剛 厚生労働省 医療政策企画官(政策統括官付情報化担当参事官室併任)

(敬称略・五十音順)

アワードに寄せて



上手な医療のかかり方アワード審査委員長

秋山 正子氏

受賞された団体、事業者の皆様、コロナ禍の中でのご苦勞を乗り越えて応募された努力も含めて、本当におめでとうございます。

逆に、コロナ禍だからこそ、オンラインを用いた取り組みなども昨年同様目立ちました。ピンチをチャンスに変えて、前向きに取り組まれる姿が想像され、事例集を読まれる方々の励みに繋がるのではないかと期待しています。

受賞された方々のみならず、応募されたすべての皆様に対してその努力に心からの敬意を表します。

今年で第4回目を迎えた「上手な医療のかかり方」アワードですが、昨年の第3回の時点で、企業の応募の中に「自社の事業・製品サービスの告知を中心とする」内容が含まれるものが散見したことを審議し、企業部門の応募時に今年は、このような応募は対象外であることを明記しました。このようなこともあり、応募総数が前回62件に対して37件と少なくなっています。

審査方法も、各部門からにこだわらず、最終審査で厚生労働大臣賞を1件、厚生労働省医政局長賞を2件選出しました。この2件は、「上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組」と、「上手な医療のかかり方における優良なコンテンツの作成やナッジ等の取組」の二つの観点を重視して選んでいます。

大臣賞に選ばれた(一社)Sapporo Medical Academyの取り組みは、これからのBig dataを活用した医療の予防的な取り組みとして、セルフケアに繋げる情報発信を目指したところは、他の自治体のデータ活用の先駆的な事例となりえます。過去にも受賞歴がある団体ではありますが、市民の不安に応えるという真摯な姿勢に審査委員が深く賛同して選出されました。

同じように、松本市保健所の取り組みも過去に受賞歴があるにもかかわらず、たゆまぬ努力を続け、市民と医療者をつなぐ取り組みを纏めて応募した内容は、今後、他の自治体の参考になるものと期待します。

若手の医師たちが乳がんに関する動画サイトを作成して発信し、再生回数104万回という実績を作っている(一社)BC Tubeも日常の診療業務のみならず、患者の不安に応えようと積極的な情報発信に動画を活用し、かつ、賛同する若手医師たちを巻き込んで、より良いものへと変えていくエネルギーに、期待が持てました。

受賞団体のみならず、応募の各団体へ、審査員からのコメントが返されています。多くの皆様の新しいさらなるチャレンジに期待しています。

目次

厚生労働大臣賞 最優秀賞

- 05 札幌市民データに基づいたコロナの情報発信
ーワクチン効果、症状発現率とセルフケアー

..... 一般社団法人 Sapporo Medical Academy

厚生労働省 医政局長賞 優秀賞

上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組

- 07 地域で育む安心・安全・納得の医療
～市民と医療従事者をつなぐ、たゆみない取組み～

..... 松本市保健所

上手な医療のかかり方における優良なコンテンツの作成やナッジ等の取組

- 09 動画共有プラットフォームを活用した
乳房・乳がんに関する医療情報提供の取組み

..... 一般社団法人BC Tube



厚生労働大臣賞
最優秀賞

プロジェクト

札幌市民データに基づいたコロナの情報発信 —ワクチン効果、症状発現率とセルフケア—

受賞者

一般社団法人 Sapporo Medical Academy

所在地 北海道札幌市 電話 090-4879-3271
メールアドレス kiccy1975@gmail.com URL https://kiccysma.wixsite.com/smaweb

取組の経緯

市民一丸となってコロナウイルス感染症2019に立ち向かおう

コロナウイルス感染症2019(以下コロナ)の流行に伴い、市民に感染状況と医療供給体制の情報を的確に伝えることが大切です。しかし、パンデミックを情報に当てはめたインフォデミックという造語が生まれたように、SNS時代の情報発信は、その莫大な情報量と拡散の速さにより、真偽の判断が医療者でもとても難しい状況です。また、ウイルスが変異するという特徴から、「別な病気」となったと言っても過言ではない変化も起こり、情報も刻一刻と変わるため、その判断がさらに難しくなっています。さらに、mRNAワクチンというこれまでに人間では使用されてこなかった医療技術の参入で、未知なるものへの不安は増すことはあっても減ることはないような状況です。

パンデミックとなり、そして上手に付き合っていく“withコロナ”の方針となった状況においては、市民の理解と協力が必要不可欠です。特に札幌市は、北のメガシティという特徴から、コロナにおいては常に流行の最先端かつ最難関となりやすく、市民一丸となった対策がより求められます。

多くの市民からの自発的な協力を得るためにも、安心と思える身近なデータに基づいた情報発信が重要です。自分の身の回りでのような状況となっているか?を迅速かつ質の高い市民データとして提供することが大切と考えました。

感染症の専門家が日本では少ない状況ですが、当法人はコンサルタントとして複数病院に関わっているノウハウを活かし、札幌市と連携することで、10万人前後の市民メガデータから、医療体制を維持するためのわかりやすい情報発信を目指し、実施しました。このような協力体制による情報発信は、これから増えると予測されている新興・再興感染症へ地域として立ち向かう、一つのかたちになると考えます。



Weekly analysis表紙

事業の概要と特徴

札幌市によるコロナと関連データを分析し、リアルタイムで提示

1.札幌市のコロナの流行状況およびその特徴を、 ウイルスの変化に合わせて市民メガデータから提供

コロナの流行状況は国や地域により大きく異なります。札幌市ではどのような状況となっているか?区(行政区)や年代ごとでどのような流行になりやすいか?を市民メガデータから算出し、実効再生産数などを早期からリアルタイムで提供しました。

2.感染対策の協力体制につながる情報発信を市民メガデータから提供

変化し続けるコロナの状況、特に重症化率の変化やワクチン接種による変化などを伝えました。これは感染対策の緩急を調整することに大きく関わります。感染対策の協力体制をつくるために重要な情報と考えます。

3.コロナと付き合っていくための上手な医療のかかり方、 特にワクチン効果やセルフケアに関わるデータを市民メガデータから提供

新しい技術であるmRNAワクチンの効果をリアルタイムで迅速に市民メガデータから算出しました。また、感染者の年代別症状発現頻度を市民メガデータから提供し、より具体的な症状への準備方法・対応法を提示しました(当法人のホームページから閲覧可能です)。このような地域データに基づいた情報発信が、各地域がコロナと上手に付き合っていくことにつながる市民一丸となった協力体制作りにつながると考えます。これらの情報を、札幌市のホームページおよび札幌市医師会のホームページから毎週発信しました。

医療のかかり方を変えていくポイント

安心・安全と思えるデータに基づいた医療情報から、 上手な医療のかかり方を皆でつくろう

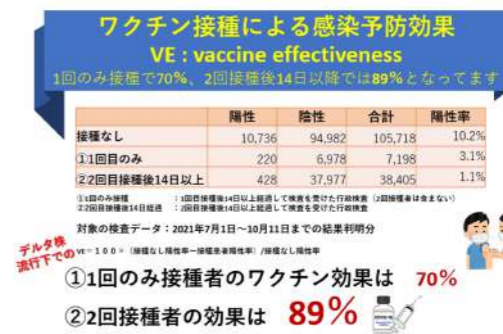
コロナに関連した情報に市民は不安でいっぱいです。特に海外の情報が本当に自分たちに当てはまるのだろうか?という思考は日本において起こりやすい現象です。そのような中、実際の自分たち自身の地域データから、新型のウイルスの特徴や、新技術であるワクチン効果などを算出し、それをもとに地域へ迅速に情報発信することは、患者・家族の不安を少しでも解消するためにとっても重要であると考えます。

さらに、札幌市民の10万人前後のメガデータから、区(行政区)や年代ごとの流行状況や、ワクチン効果・年代別症状発現率データなどを迅速に提供することは、信頼する医療情報として認知されることにつながると考えます。市民メガデータに基づき、自分たちが住む地域のワクチン効果を提示したことで、上手に接種を推奨することができました。また、年代別症状発現率からセルフケアの準備と対応法、そして受診のタイミングの情報をわかりやすくシンプルに提示できました。コロナに対するセルフケアの学びは、風邪やインフルエンザのセルフケアの学びの底上げにもつながったと考えます。

このような情報発信から、地域ごとの上手な医療のかかり方を、地域住民自らが考え作っていくことができると考えます。そして、感染症の流行で危機的な状況となっている医療現場の改善につながります。これからますます増えると予測されている新興・再興感染症への市民一丸となった協力体制のひとつのかたちになると考えます。



年代別症状発現率



ワクチン初回接種感染予防効果



厚生労働省 医政局長賞
優秀賞

プロジェクト

地域で育む安心・安全・納得の医療 ～市民と医療従事者をつなぐ、たゆみない取組み～

受賞者

松本市保健所

所在地 長野県松本市大字島立1020番地 電話 0263-40-0800
メールアドレス h-soumu@city.matsumoto.lg.jp
URL <https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/229/1543.html>



取組の経緯

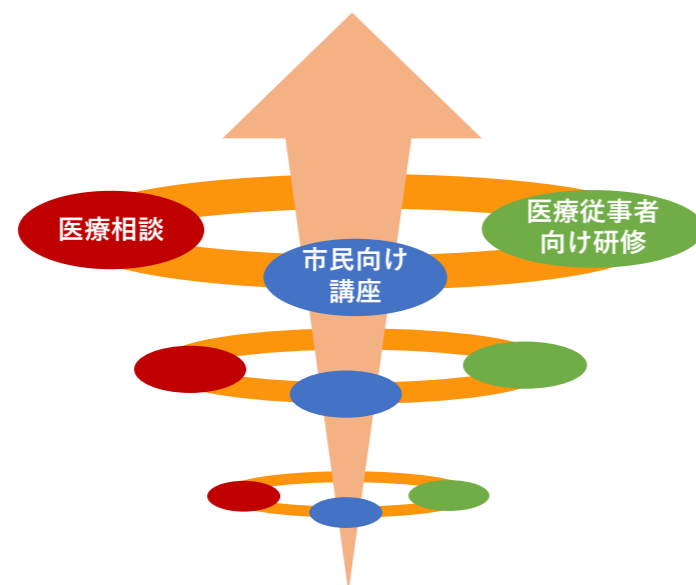
患者と医療従事者が互いの思いや認識を相手に伝えられるような環境づくり

医療を安全に、そして安心して受けるためには、患者と医療従事者の対等な信頼関係が欠かせません。しかし、時にお互いの説明と理解にズレが生じ、時間の経過とともに大きくなる場合があります。

「医師に言えない、聞けない。」という医療相談をたくさん受ける中で、市民の皆さんに、医療を受けるときの心構えや準備について伝えることができないかと考えたことがきっかけとなり、「医者にかかる10箇条」を基にしたポスターを作成し、市民向け講座を開始しました。

そこでいただいた意見を医療従事者に届けるべきと考え、市内の三師会、病院に伝え、そしてまた三師会からいただいた意見を、講座等を通じて市民の皆さんにも伝えるというサイクルを作りました。

安心・安全・納得の医療



事業の概要と特徴

患者と医療従事者が円滑なコミュニケーションをとるための架け橋となるように

いわゆるゼロ予算で以下の取組みを行っています。市民からの意見や要望を医療従事者に伝え、さらに医療従事者からの意見を相談や講座の中で市民に伝えていくサイクルを回しています。

- (1) 相談業務
- (2) 市民向け講座「賢い患者になるために」

市民の医療安全に関する認識の向上、患者と医療従事者が円滑なコミュニケーションをとることが、納得した医療を受けることに必要なことだと伝えています。市民が希望する場所に職員が訪問し、市民に直接語り掛け、率直な意見や感想を聞き、また医療現場からの声を届ける貴重な場としています。

- (3) 医療従事者への情報提供と研修会の開催

医療相談業務や市民向け講座で寄せられた意見、感想等の情報を市内の病院、三師会にお知らせしています。三師会毎に研修を実施し、それぞれの会員に合った相談事例や市民の意見を紹介し、ご意見をいただいています。



長野県シニア大学 授業風景

医療のかかり方を変えていくポイント

患者と医療従事者が相互理解を深め、お互いが満足感を得られる環境づくりへのお手伝い

「医者にかかる10箇条」を知っている人は、ほとんどいませんでした。多くの人にコツコツ伝えていくことは大変ではありますが、必要なことで、それが地域に根差した私たち保健所の役割だと思います。

医療は受け手である患者と医療従事者との協働作業の中で育まれていくと考えています。患者は患者として必要なことを伝え、自分自身を守っていく必要があります。医療従事者は患者に満足感を与えながら、コンプライアンスを含めた医療従事者としての立場を守る必要があります。患者と医療従事者が、相互の思いを理解し、協力していくことの必要性をお互いが認識することが安心・安全・納得の医療につながるものと確信しています。

私たちは、患者・医療従事者それぞれが満足し、納得できるような医療環境づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

今回、松本市の地区組織活動を担っているキーパーソンの方たちと協力できたこと、市民の医療に関する意識の高さがこの事業を盛り上げてくれているのだと思っています。



地域での講座風景



厚生労働省 医政局長賞
優秀賞

プロジェクト

動画共有プラットフォームを活用した 乳房・乳がんに関する医療情報提供の取り組み

受賞者

一般社団法人BC Tube

所在地 東京都千代田区九段南一丁目5番6号 りそな九段ビル5F KSフロア

メールアドレス <https://bc-tube.com/> URL info@bctube.org

取組の経緯

「乳がんを皆で知り、やさしく支え合い、共に生きる」社会を目指して

一般社団法人BC Tubeは、乳がん診療・研究を専門とする医師で構成されています。私たちは、乳がんに関する臨床や研究を通じて、乳がんという疾患の奥深さを知り、まだまだ普及していない情報が多くあることを知り、乳がんについて「知る」ことの大切さを感じ、この取り組みを始めました。

乳がんに関する情報はインターネット上に溢れています。インターネットで入手できる情報は、分かりやすい情報から難しい情報まで、科学的に正しいと言えない情報から正しい情報まで、玉石混淆です。誰もが求めているのは、誰にでも簡単にアクセスでき、分かりやすく、信頼できる乳がんの情報です。

BC Tubeは、2020年7月からYouTubeチャンネル「乳がん大事典【BC Tube編集部】」で乳がんに関する情報発信を始めました。複数の乳腺外科医が関与することで、正確さを保証し、YouTube投稿前の非医療者によるチェックを通して、分かりやすさを可能な限り、実現しています。多くの方々にとって、乳がんについて知るきっかけになってほしいという願いを込めて、動画を作っています。

今後も、ご覧いただいた方のご意見を取り入れることによって、より多くの人にとって、分かりやすい乳がん情報の動画を作っていく予定です。さらに、信頼できる情報発信を維持するために、より多くの医療者・研究者にご協力を仰ぎます。多くの患者、市民、医療者と手を取り合って、透明性の高い組織を構築、維持します。

また、動画による情報発信に加えて、乳房の健康のための大切な生活習慣である「プレスト・アウェアネス」の普及を目的として独自のリーフレットを作成し、全国の医療機関や公共施設・飲食店などへの配布を行っております。

誰にとっても乳がんについて「知る」ことが簡単になるように、乳がん診療に携わる医療者と人々をつなげる、乳がん情報発信のプラットフォームとなり、「乳がんを皆で知り、やさしく支え合い、共に生きる」社会を目指して、活動しています。



「多くの方へのプレストアウェアネス啓発」

事業の概要と特徴

動画共有プラットフォーム「YouTube」を活用した乳がんの情報発信

乳がん診療における医療者と非医療者の知識のギャップを埋めるために、非医療者へのアンケート結果をもとに、専門家の意見を加えて、本取り組みの全体像を計画しました。

本取り組みの中心となる動画制作は、複数の乳がん診療の専門家による十分な議論の上で実施しています。この過程で、科学的妥当性を保証するために、一般的な科学雑誌でも行われるピアレビュー制を導入し、独立した複数の専門家の査読を経ています。さらに、乳がんの専門家以外のコメディカルや非医療者（BC Tube後援会）のレビューも加え、表現や内容の理解しやすさにも配慮しています。

完成した動画はYouTubeチャンネル「乳がん大事典【BC Tube編集部】」に公開し、各種SNSを通じて動画の拡散および乳がん啓発運動を行なっています。

医療のかかり方を変えていくポイント

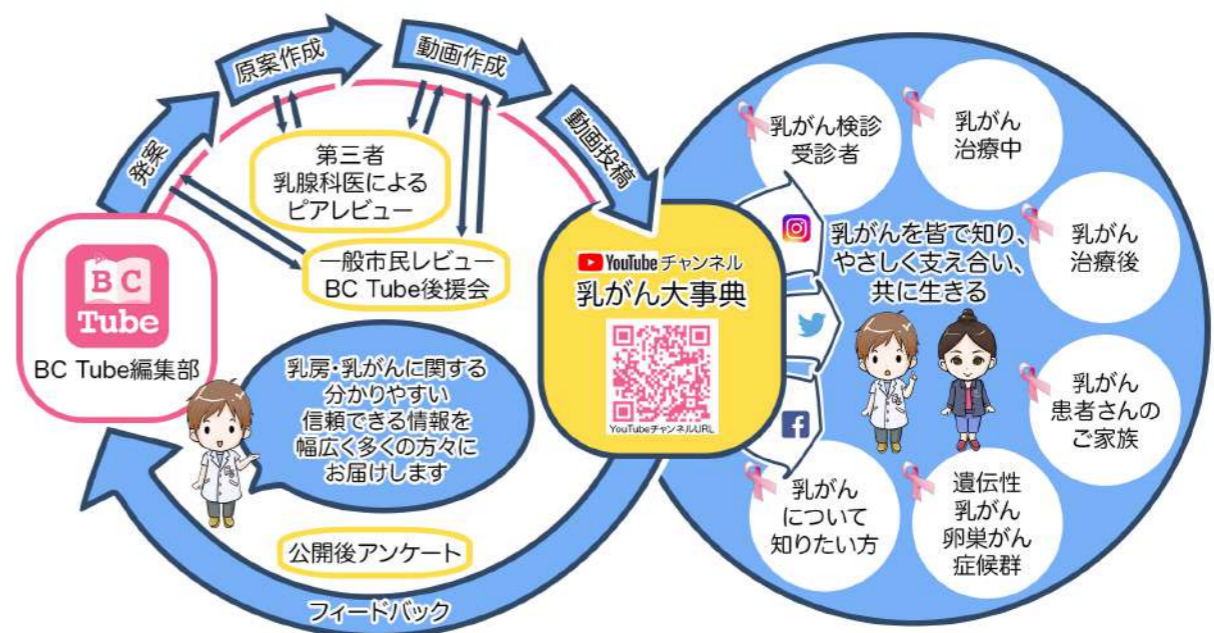
信頼できる分かりやすい情報を いつでもどこでも誰でもアクセスできる環境作り

がん診療では、患者さんやご家族に不安が生じることがあります。この不安の一因として、「知りたいことに対する情報の不足」が挙げられます。今の診断や治療について、病院で聞けなかったこと、もっと知りたかったこと、理解できなかったことなどがあるかもしれません。適切な治療選択のためには、乳がんについて知ることが必要です。

乳がんは、病院にかかる前から正しい知識を身につけておくことが重要な病気です。なぜなら、乳がんは検診で指摘されるか、自分で見つけることが多いからです。正しい知識を持つことで、恐れずに安心して検診や医療機関を利用できるようになります。

本取り組みで発信している医療情報を通じて、乳房の健康に関する大切な知識である「プレスト・アウェアネス」を知り、治療中の方は正しい情報を身近な方々と共有することで、安心して納得した治療を受けられるようになることが期待できます。

乳房・乳がんに関する、分かりやすく正確でアクセスしやすい医療情報の提供により、様々な人々にとって医療のかかり方を変えるきっかけとなることが期待されます。



「乳房・乳がんに関する情報発信の作成過程」